

歯科技工士から診た咬み合わせを考えてみよう

Organ Dental Lab

長谷川 篤史

日々の補綴物製作において我々、歯科技工士は数多くの場面で咬合に関与している。基本的に咬合は歯科医師が診査・診断し、歯科技工士がその診査・診断に基づいて補綴物に反映させて製作するが、歯科医師とのコミュニケーションを円滑に行うには、歯科技工士にも同様の知識が必要となる。

補綴物製作においても、どのような咬合様式にするのか、どのような咬合面形態にするのかなどを理解しそれを製作しなければならない。

咬合を理解するのは難しい事であるが、私自身も含め皆さんと一緒に考え、これを機に若い世代の歯科技工士にも咬合について興味を持って頂ければ幸いです。